

ブルンジ月報（2023年8月）

1. 内政・外政

- 1日、ブルンジ当局はタンザニア国内にいるブルンジ難民の帰還を進めるため、新たな代表団をタンザニアに派遣。(SOS Media)
- 14日、主要野党である CNL 党の半数に当たる政治局メンバー10人は、活動停止中のルワサ党首に代わってンタコバキムブナ議員を党首に擁立。(SOS Media)
- 21日、国家事務総局の発表によると、今後、外交旅券の更新を希望する者は旅券有効期間中の業績リストを添付し、また、ブジュンブラ国際空港を経由して外交旅券で海外に渡航する者は、業務命令書を提示しなければならない。(Region Week)
- 22日、ンディラコブカ首相が、チビトケ県マバイイ地区の行政代表者、治安当局者、住民との会合の際に、同地区に活動する反ルワンダ政府勢力へ協力する者は皆殺しにすると延べ、さらにブルンジ当局は、マバイイに住むルワンダ人を帰国させるため、国勢調査を実施する予定であると述べた。(SOS Media)
- 22日、2月に同性愛容疑にて逮捕された25名のうち、5名が懲役2年、2名が懲役1年の有罪判決となった。(SOS Media)
- 24日、CNL 党のルワサ党首は自宅で記者会見し、ルワサ党首の解任を宣言し、ンタコバキムブナ議員と交代させた政治局メンバー10人に関し、団結を保つように呼びかけた。また CNL 党による集会開催の許可を国務大臣に要請。(SOS Media)
- ンダイシミア大統領はアフリカにおける中国の役割を“新植民地主義”とする西側の認識に反論。さらに同大統領は、中国・アフリカ協力フォーラム (FOCAC) への積極的な参加を通じて、グローバルな幸福の追求を強調している。(26日付け、CGTN)
- 国際機関およびブルンジの40団体が、国連人権理事会に対し、ブルンジにおける国連特別報告者の職務を更新するよう要請。ブルンジでの深刻な人権侵害に対し必要であるとしているが、ブルンジ当局は希望していない。(26日付け、SOS Media)
- 28日、ブルンジとコンゴ民主共和国は、キンシャサにて軍事分野での協力協定に調印。(SOS Media)

以上